

**新しい月科学の構築に向けて  
～小型月着陸実証機（SLIM）月面着陸後の分光観測に関する議論を展開～**

立命館大学宇宙地球探査研究センター（ESEC／センター長：佐伯和人、所在地：滋賀県草津市）に所属する佐伯和人教授（写真左）、長岡央准教授（写真中）、仲内悠祐助教（写真右）は、幕張メッセで開催中の日本地球惑星科学連合 2024 年大会において、「月の科学と探査」をテーマとしたセッションで報告を行いました。2024 年 1 月にピンポイント着陸に成功した小型月着陸実証機（SLIM）に搭載したマルチバンド分光カメラ（MBC）での観測をはじめ、月探査データを用いた研究成果や将来の月探査計画の議論に参加しました。



写真は 5 月 23 日に立命館大学朱雀キャンパスで開催された ESEC 設立記念シンポジウムで撮影

現在、日本を含め世界各国では、着陸探査やサンプルリターン計画を含めた次期月探査計画の検討が精力的に進められています。セッション「月の科学と探査」は、代表コンビーナ（議長）に宇宙科学研究所の西野真木主任研究開発員、共同コンビーナに「月極域探査機 LUPEX プロジェクト」で可視・近赤外分光器の開発サブリードを務める本学の仲内助教が参加するなど、月探査計画に携わる多くの研究者が、探査データの解析に向けた提案や、月試料の分析成果、搭載機器開発など、月科学に関する意見交換を幅広く行いました。特に、2024 年 1 月に月面着陸し、その後複数回の越夜に成功した SLIM について最新の報告が坂井真一郎プロジェクトマネージャー（JAXA）、大竹真紀子ペイロードマネージャー（会津大学）はじめ、複数の発表者により行われました。この中で、佐伯和人センター長は招待講演において、SLIM 着陸後の MBC 運用の詳細と、取得データの解析経過について報告しました。

**【佐伯センター長のコメント】**

今回の学会は、マルチバンド分光カメラのデータ解析の経過の多くを公開する国内で最初のこととなりました。月面の岩石ひとつひとつの特徴を近赤外分光法で鮮やかに描きだしたのは、世界で初めての成果です。マルチバンド分光カメラが月面探査の新しい扉を開く装置であることが示せたのではないかと思います。科学成果のとりまとめも大詰めに入っておりますので、今後の発表にもご期待ください。

**【仲内助教のコメント】**

MBC には日本の惑星探査用分光カメラとしてはオートフォーカスレンズやスキャンミラーなどチャレンジングな新機能が搭載されていました。これらの機能がすべてうまく動かなければ、今回のような成果を創出することができないプレッシャーを感じながら、SLIM にコマンドを送っていました。MBC 開発開始から約 10 年、様々な方のご協力により世界で初めての成果が得られつつあることに感謝いたします。

以上

本リリースの配布先： 京都大学記者クラブ、草津市政記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会

**● 内容・取材に関するお問い合わせ先**

立命館大学広報課 担当：岡本 TEL.075-813-8300 Email. r-koho@st.ritsumeai.ac.jp